

医師



納得、安心の最新の泌尿器科診療

泌尿器科部長 高木 康治

40年間この地域の泌尿器科医療の中心を担ってまいりました小谷俊一泌尿器科部長が定年退職され、その後任として4月1日付けで名鉄病院から赴任して参りました。よろしくお願い致します。

私は名古屋市中村区の出身で、前任地の西区にある名鉄病院では腹腔鏡下小切開手術(※1)を導入し、低侵襲(患者さんの体の負担が小さく回復も早い)手術に力を入れ診療を行ってきました。今までの中部ろうさい病院の泌尿器科の特色としては、前立腺がん、脊髄損傷に伴う神経因性膀胱、男性性機能障害の症例が多い事でしたが、4月からは名古屋大学泌尿器科の協力のもと泌尿器科悪性腫瘍に対して低侵襲手術である腹腔鏡手術を開始しています。

また、最新のホルミウムヤグレーザーシステム(※2)を導入し、尿路結石症に対して尿管鏡を用いた内視鏡手術も開始しています。以前から導入済みの体外衝撃波結石破碎装置と組み合わせることで、尿路結石症に対してより効果的な低侵襲治療を行うことが可能になりました。

当科にはすでに泌尿器科専門医(木村医師、坂元医師)が2名在籍しており、彼らとともに

に今後は泌尿器科悪性腫瘍、尿路結石症に対する患者さんの体に優しい低侵襲治療に力を入れていきたいと考えております。

泌尿器科悪性腫瘍(がん)、尿路結石症に特徴的な症状としては、血尿が最初の症状として出現することが多く、また、わき腹のあたりの強い痛みを伴う場合もあります。尿に血液が混じったり、健康診断で尿潜血を指摘されたりした場合は早めの泌尿器科受診をお勧めします。

当院の理念である「納得、安心、そして未来へ」を引用させていただきますと、患者さんに納得いただいた上で安心して検査、治療を受けていただき、そして生活の質(QOL)を向上させることで患者さんとご家族の大切な未来に少しでも貢献できますよう日々の診療に励んでゆきたいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

※1…臓器の摘出に必要な最低限の大きさの単一切開創を置き、創縁から挿入した内視鏡観察下にこの単一創から行う低侵襲手術

※2…尿路結石症、前立腺肥大症の内視鏡手術において、特殊なレーザーで切開から止血、結石破碎を行える低侵襲かつ安全・効果的な最新の手術機器